

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区弦巻 2-29-17
園名	世田谷区立東弦巻保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・可動式の遊具を使って遊びを広げる
- ・過ごし方や遊びを自分で決めて、楽しむことができる環境作りをする。

<テーマの設定理由>

園庭が広く、園庭には様々な可動式遊具がある。子どもたちはそれを組み合わせて主体的に遊ぶようになっていたので、遊びのパーツを増やすことでさらに子ども同士で遊びが展開していけばと考えている。また、園庭だけではなく、乳児クラスの遊びや、室内でも自分の好きな場所で充実して過ごせるように整えていきたいと考えている。

2. 活動スケジュール

- * 1回（10月）：可動式遊具を自分たちで取り出し、想像したものや世界を形にしてみよう。…直角型のマルチパーツとバスマットを組み合わせ、作った家に屋根を付けようとしたけれど試行錯誤。
- * 2回（11月）：可動式遊具の数や種類を増やし、さらにイメージを広げて構成してみよう。…どう組み合わせたら安定するか？板にも長いものと短いものがあるなど、種類を使い分けをすることに気づいて、子どもたち同士で相談したり、いろいろ試してみる経験をする。
- * 3回（1～2月）：可動式遊具の扱いや組み合わせ方を理解してきた子どもたちが、より広くスペースを使って遊びを展開していける設定をする。マルチパーツ同士を隙間なく密に組み立てて家にする子、間に穴の空いたバスマットを挟んで、穴から外を覗けるように工夫する子など、楽しさも膨らんだり、そこから異年齢児との関わりの機会にもつながっていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ウッドピース、マルチパーツ、板(園庭)
自由に組み合わせられるマット(乳児クラス)
自由に必要なものが出し入れしやすい棚など

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【園庭】

外遊びは基本的に自分でやりたいことを見つけて遊び始める。主に幼児クラスは、自分たちで遊びの展開に合わせて家、店、基地などを作り、イメージを共有しながら遊びを進めている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

もともと手作りで同じパーツがあったので扱いは子ども自身がある程度知っている。子どもが自分で出し入れしやすいよう、子どもたちと一緒に置き場所も考えたことで出し入れしやすくなった。2, 3 歳児は保育士と一緒に組み立てを手伝ってもらいながらも自分の思う形になる中で満足しながら遊びを展開している。4, 5 歳児は自分たちで協力して運んだり、どうしたいかイメージを話したりしながら楽しんでいる。ごっこあそびだけでなく、板の中心にパーツを挟んで、バランスボードにしたり、一本橋にしたりして楽しむ姿もある。



屋根にしていたマットが風で飛ばされることやずれてしまった経験から「屋根が飛ばされないように丈夫にした」といったような経験を活かしながら遊びを展開する姿があった。



乳児（1 歳児）では、遊びのコーナー分けをして、それぞれの興味や発達に合わせた楽しみ方ができるように、運動遊び用の遊具を購入し、室内でも動的な遊びを経験できるような環境作りをした。限られた空間の中でも運動遊びを繰り返し楽しむことができ、過ごし方の幅が広がった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

幼児は、「やってみたい！」という期待を膨らませながら、自分たちで取り出して構成していく面白さを感じ、友だちとイメージを重ねて、力を合わせて運んだり、相談し合う経験をすることができた。はじめはうまくいかなかったことも「どうすれば崩れないかな？」と子ども達なりに試行錯誤して工夫する姿は、このような主体的に遊びを展開できる環境から生まれると感じた場面だった。

乳児のマットは、0歳児クラスでも後半になると自分で運んだり、好きな場所に置こうとしたりする姿があった。そういった姿もすぐに保育士が手を出さずにどうしたいか見守っていることがより自由な発想につながり、主体的に遊べる環境づくりにつながると気づいた。

大人が思いつかない発想で遊びが展開している一方で、組み方によってはまだ不安定で危険な部分もあるので大人の見守りは必要である。

子どもたちが思い描くイメージを壊さずにどう見守っていくかを職員間で様子を共有しながら進めていきたい。